

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
15	小沢 映子（27）	<p>1. 新型コロナウイルス感染症により増加する困窮やDV・虐待等乗り越え「普通の暮らし」を取り戻せるか</p> <p>かつてないスピードで貧困が広がっている。収入が減り、家賃や住宅ローンが払えないなどの問題が浮き彫りになってきた。フィランセにあるユニバーサル就労支援センターの生活についての相談窓口での住居に関する相談は、昨年1年間で3件だったものが、この2か月で338件に跳ね上がっている。</p> <p>特別定額給付金の10万円だけでは足りないのが見えている。いつ自分が住居を失ってしまうか分からないと、住居を失う前に心を病んでしまうケースが多々出てくるであろうと危惧される。今、制度として必要なのは、その場限りの支援ではなく、持続可能な支援ではないか。</p> <p>困窮している人、外国人、ひとり親世帯に対して、住居確保給付金、緊急小口資金、生活保護などの自治体の支援制度があるが、既存制度の限界はないのか。一人一人の状況に寄り添った支援や制度の運用はできているのか。</p> <p>2. 学校の預かり教室等休校中の支援について</p> <p>静岡県内の全市町立小学校で実施された臨時休校。富士市は、一時預かりを各小学校でスタートさせ、教員が児童を見守った。自宅での留守番が難しい低学年の1、2年生、続いて3年生がほとんどを占めた。学校側は十分な間隔を保って机を配置。教員は自習や食事の様子を見守り、時間によってはDVDを視聴させるなどして、ストレスをためない配慮をした。以下質問する。</p> <p>(1) 今回の小学校での預かり教室の実施状況を踏まえ、今後どのような対応を考えていくつもりか。</p> <p>(2) 休校中、様々な家庭状況により、DVや虐待が増えると予想され、現にDVや虐待の報告もされつつある。そこで休校中の子供たちへの対応と支援をどのように行っていたのか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長